

豊かな能美暮らしを未来へつなごう！



エス！エス！エスディージーズ

SDGs

問 / 市長戦略課 SDGs 推進室 (☎ 58-2220 ☎ 58-2291)

地域・企業のSDGsの取り組みを紹介～第2回「小松マテーレ株式会社」～

小松マテーレ株式会社は、染色を基盤に多彩な事業領域をカバーする「化学素材メーカー」です。海外のトップブランドにも供給しているファッショングやスポーツなどの衣料分野から、医療関連、建築建材関連、電材関連などの資材分野、さらには炭素繊維や超発泡セラミックスなど環境共生素材を軸とした先端材料分野まで、幅広く事業展開を行っています。

素材に新たな息吹を ～mono-bo（モノーボ）～

「ハギレ」を捨てずに活用する“アップサイクル”的視点で、サステナブルな商品づくりに取り組んでいます。地球の未来のために、「おしゃれ」で“やさしい”商品を。併設の体験工房では、世界にひとつのオリジナルTシャツが作れます。



リアル店舗のファクトリーショップ
「mono-bo（モノーボ）」

繊維を学ぶ・体験する ～fa-bo（ファーボ）～

繊維の歴史や生産工程を学べる場です。染色体験などのワークショップも開催しており、実際に体験しながら繊維について学ぶこともできます。建物は、国立競技場を手掛けた世界的建築家・隈研吾氏が設計したものです。



繊維を学べる場ファブリックラボラトリ
「fa-bo（ファーボ）」

「小松マテーレ・サステナビリティ・ビジョン」

『私たちは、独自の染色加工技術・先端資材の提供など事業活動を通して、社会的な課題解決に貢献します。』

取り組んでいる5つの項目

- I 気候変動対策（CO₂）
- II 循環型社会づくりへの貢献
- III 人々の感動の創造
- IV 防災・減災への取り組み
- V 地域貢献と社員の成長



第3回は株式会社日本海開発を紹介します！



のみふるだより

問/能美ふるさとミュージアム (☎ 58-5250 ☎ 58-5251)



コラム

のみふる館内紹介

～テーマ展示室「能美の誕生 山のめぐみ。狩猟と採集のくらし。」1～

今回は、テーマ展示室「能美の誕生 山のめぐみ。狩猟と採集のくらし。」をご紹介。こちらの展示室では旧石器時代から縄文時代の生活を紹介しています。能美に最初に人類が訪れるのは、2万年以上昔の旧石器時代。この頃はいわゆる氷河期と呼ばれる時代で、人々は定住しない遊動生活を送っていました。定住しないため、住居跡はほぼ残らず、情報が極めて少ない時代です。かつてはその情報の少なさから、「石川県内には旧石器時代の遺跡は無い」と考えられていました。

しかし、その考えを大きく覆したのが、一人の少年の発見でした。昭和35年の春、考古学好きの中学生田中勲さんは、灯台笹町の畠のすみで白い石のかけらを発見しました。その石こそが、県内で初めて発見された旧石器時代の石器だったので。この発見がきっかけとなり、県内の旧石器時代遺跡の発掘調査が行われ、はるか2万年以上前に、人類が能美を訪れていたことが明らかになったのです。

のみふるでは、このとき少年が発見した石器の実物を展示しています。アクリル柱の上に象徴的に展示。特別な資料として展示方法を工夫しました。一人の少年の熱意が、石川の歴史を変えたことを子どもたちに知ってもらい、一人一人が、歴史を、未来を変える力があることを感じてもらえた、と思っています。メモリアルなこの石器。ぜひ一度、じっくりご覧ください。



お知らせ

イベント のみふる賑わいイベント のみふるクリスマス

▶ 開催日 12月12日(日)

▶ スケジュール

10時00分 のみふるクリスマスツリー点灯式

13時00分 第6回九谷ぬり絵コンテスト 表彰式 (会場:体験棟)

受賞作品は、大画面(30台の有機ELディスプレイ能美モデル)でご覧いただけます。

▶ その他体験イベント

- ・能美市産ゆずスイーツプレゼント クイズラリーに正解した小学生以下の方、先着100名
- ・オーナメントづくり のみふるクリスマスツリーにオリジナルオーナメントを飾り付けよう!
- ・2022年カレンダーフィギュア シールや写真で可愛いオリジナルカレンダーを作ろう!
- ・年賀状用フォトスポット オリジナルフォトプロップスやガーランドで年賀メッセージ用写真を撮ろう!



有料広告

有料広告

有料広告

防災サプリ

不足しがちな「防災」を補います

問/危機管理課 (☎ 58-2201 ☎ 58-2290)

年末防災のススメ

師走を迎え、何かと忙しい毎日ですね。12月は、クリスマスやお正月、お楽しみがいっぱいですが、災害に対する備えは気を緩めずにお願いします。今回は、年末の大掃除などの機会に取り組んでいただきたい「ご家庭での年末防災」をご紹介します。

①家庭備蓄品、非常持ち出し袋の確認

非常時のための備蓄食料や水などの消費期限、乾電池の液漏れの有無などを確認し、できるだけ新しいものに交換することが備蓄品の安全性を高めます。これまで備蓄していたものは普段使いに回すことで、効率的に消費することをおススメします。



②防災行政無線 戸別受信機の電池交換を

冬場は雷による停電が多い季節です。各ご家庭の戸別受信機は、普段はコンセントから電源を取り、停電時には乾電池が働きます。

乾電池は、長い期間の自然放電や液漏れなどで使えなくなっています。停電時にも放送を受信できるように乾電池の交換をおススメします。



③コンセント周りのお掃除を

家具やテレビなどの後ろにあるコンセントや配線周りのお掃除、差し込みが十分か確認しておくことで火災を予防できます。また、ブレーカーや住宅用火災警報器の作動確認もおススメします。

師走の防災講座

こちらの年末防災もおススメ

東日本大震災から10年。私たちは、災害に備えるための多くの教訓を与えられました。将来も決して忘れるこなく、語り継いでいかなければなりません。

①自主防災組織の視点で 住民一人一人の「自助・共助」の行動を学びます。

災害伝承講演会

仙台福住町方式

「減災の処方箋～一人の犠牲者も出さないために～」

入場無料

事前申込制
先着50名

東日本大震災の当日にもいち早く炊き出しや避難所運営を開始した「福住町方式」から、地域防災を学びましょう。

日時 12月12日(日)
10時30分～12時

講師 大内幸子さん

宮城県仙台市在住 福住町内会副会長
仙台市地域防災リーダー(SBL)

場所 防災センター5階 研修室

入場無料

事前申込制
先着50名

②男女共同参画の視点で 地域での「共助」の活動において、要配慮者支援がとても重要です。今回は、特に「子どもと女性」について掘り下げて学びます。

防災講座

「マンガで学ぶ アウトドア防災とハザードマップ」

「あなたと小さな命を守るために」

「親子でできる防災」のスペシャリスト2人による講座です。

日時 12月19日(日)
9時30分～12時講師 あんどうりすさん
全国で講演、新聞で「アウトドア防災」を連載

場所 防災センター5階 研修室

吉田穂波さん

神奈川県立保健福祉大学大学院
ヘルスインベーション研究科教授

親子連れ歓迎

講演会・講座の申し込み・問い合わせ

危機管理課 (☎ 58-2201 ☎ 58-2290 ✉ kikikanri@city.nomi.lg.jp)

FAX、メールでのお申し込みは、氏名、住所、連絡先、希望の講演会タイトル、日時を記載してお送りください。



いしかわ動物園にズームイン！

Zoo

文：いしかわ動物園

■ アルパカに赤ちゃんが誕生

9月18日の夕方、アルパカにメスの赤ちゃんが誕生しました。いしかわ動物園でアルパカが生まれたのは、初めてです。父親は2015年に当園にやって来た8歳の「ホップ」。全身が真っ白で、左頬に茶色のワンポイントがある大柄な個体です。母親は昨年春にホップのお嫁さん候補としてやってきた9歳の「キャンディ」。目がパッチリとした、全身グレーがかった白を基調とした美人さんです。

そして、この両親から生まれたのが写真的赤ちゃんなんですが、正直「えっ」と思われた方もいるのではないでしょうか。白と淡いグレーからなぜ黒が生まれるのか、不思議でしょ。また、アルパカには“白”的イメージがつきまといますもんね。でも、アルパカの体毛には白、グレー、茶色、褐色、黒など、さまざまな色があります。模様も単色、まだら、三毛まであるんですよ。清楚な白も魅力的ながら、小悪魔的な黒もまた、元気な女子にお似合いです。ふれあいひろばに誕生した新たなアイドルに、どうぞご声援ください。



左から父親「ホップ」、母親「キャンディ」



アルパカの赤ちゃん



母親「キャンディ」と一緒に

みんなの図書館



※開館時間、休館日については、市ホームページ、各図書館だよりをご覧ください。

おすすめの一般書



さいおう たて
塞王の盾

今村 翔吾 [著]
集英社

決して破られない石垣を造ろうとする石工の匡介。しかし、そこに立ちふさがるのは、どんな守りも打ち破るという彦九郎の砲。大津城を舞台に、信念をかけた職人の対決が幕を開ける。

おすすめの児童書



レッツキャンプ

いとうみく [作]
佼成出版社

晴斗は、新しいお父さんの大介とふたりでキャンプに行くことに。テント設営、釣り、料理と、何をやっても失敗ばかりのふたりだったが、キャンプ場で“ある事情”を抱えた親子と出会い…。

インターネットから予約ができます

貸出可能の本、雑誌（最新号除く）のインターネット予約ができます。
予約するには、パスワードが必要です。
詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。

冬の読書スタンプラリー

期間 12月4日(土)～令和4年1月31日(月)

対象 市内在住の小学生以下の方

台紙は各図書館にあります。
夏に配布した台紙を継続して使えます。



今月のイッピン！「九谷庄三 色絵割取 柳美人団平鉢」

九谷庄三は江戸後期に寺井村に生まれ11歳で加賀藩窯の若杉窯に従事することになりました。若杉で色絵九谷の名工、粟生屋源右衛門に出会い、九谷焼の陶画工の道を目指し陶技の習得に励みました。18歳になると師の粟生屋源右衛門の勤めもあってか、大聖寺藩領である山代の宮本屋窯で赤絵細描の画風を1年半、学びました。色絵と赤絵の技法を習得した庄三は師の粟生屋源右衛門が関わっていた小野窯に招かれその技量を発揮しました。江戸末期に至って寺井に帰り独立し絵付け工房を開きます。明治の初めころには門人200～300人を数えたといいます。画風は赤絵に金襷手のみならず西洋絵の具の中間色をも加え豪華絢爛ないわゆる彩色金襷手を確立します。工房には中川二作や武腰善平ら名人級の門人が育ち、工房一体となって庄三作品を制作します。本作も工房制作といつてもいい名品です。割り取りで花舟・山水文・美人画と区分し金襷手の地紋や裏文様、銘文など庄三本人含め幾人かの分担絵付けの可能性を感じるイッピン！です。（文・五彩館館長 中矢）



九谷庄三 色絵割取柳美人団平鉢

サイズ 口径 33.5／高 8.0cm
作 者 九谷 庄三
生没年 1816(文化13)～1883(明治16)年
年 代 明治10年代頃
所蔵先 能美市九谷焼美術館 | 五彩館 |

INFO

■「第6回九谷ぬり絵コンテスト展」～12月25日(土)
会場 「五彩館」ロビーギャラリー・紫の間（観覧無料）

■「第17回石川県陶芸協会作品展」～3月21日(月・祝)
会場 「五彩館」緑の間

■年末年始（12月29日(水)～1月3日(月)）は休館します

今月の手話

問 / 福祉課（☎ 58-2230 ☎ 58-2294）

手話表現：移住アンバサダー 池見 藍さん「ブロートルーフ ビオベックライ」（パン屋）経営
移住アンバサダーとは、市の魅力発信、移住希望者への情報提供やサポートなどを行っていただく人です。

お世話になる・助けてもらう



①-1, ①-2 親指を立てた左手の甲側を、右手で軽く数回たたく



ありがとう



①-1, ①-2 水平にした左手甲に右手の小指側をのせ、右手を上げながら、おじぎをする

動画配信中



QRコード

動画で「今年もお世話になり、ありがとうございました。
来年もよろしくお願いします。」

の手話表現をご覧いただけます。
ぜひ、アクセスしてみてください♪



わたくしとこの町

したいこと、能美市だったら叶うかも

File56 三ツ口町



水害を想定した避難訓練で、土のうを作りました

私は、防災士として三ツ口町の防災計画の策定や、防災訓練の実施をしています。

石川県の消防保安課に勤めていた経験を生かし、平成27年に自主防災組織を立ち上げ、当時の町会長・高田義孝さんと共に被害想定や防災計画を策定しました。私は立ち上げの時に防災士の認定を受け、現在では、計8名の町民が防災士認定を受けています。毎年実施している防災訓練には例年60名程が参加しますが、ほとんどの世帯から参加があり、町の防災意識はかなり高くなっていると感じます。

訓練内容は、地震や水害を想定した避難訓練です。日中だけではなく夜間に実施した年もありました。今年はコロナ禍を想定し、公民館に検温受付を設置、発熱者の隔離スペースを設けるなどの避難所開設訓練も実施しています。

初回の訓練から町の皆さんに伝えていることは、「まず自分の身は自分で守ることです。それでも自助に不安があるご高齢の方などの場合は、町会役員に相談してもらいます。相談を受け、町会で事前の備えをしておく共助の観点を特に大切にしてきました。実際に訓練

することで、「あの家のおばあちゃんが来ていてなくて心配だ」「車椅子で迎えに行く必要がある」など気付ける点が多くあります。

また、三ツ口町は東部地区振興会に所属しており、昨年度は会長として振興会の7町会全体で防災訓練が出来ないか検討しました。昨年度の活動はコロナ禍のため、石川県から講師を招いての防災研修しかできていませんが、いずれは土砂災害や地震を想定した宮竹小学校や北陸先端科学技術大学院大学の体育馆への避難訓練を実施したいと考えています。そういう活動を通して、これからも地域の防災意識向上に尽力していきます。

防災意識向上に貢献する防災士

むらかみ のぶお
村上 信男 さん

File55 浜町



浜町バンドによる演奏会の様子

私は、浜町いきいきサロン会の代表を務めています。サロンを立ち上げてから、すでに20年以上経ちました。

立ち上げようと思ったきっかけは、当時、母親が認知症初期で、その対応に一人だけでは負担が大きく、苦労していました。高齢の方が刺激を受けながら安心して話ができる、温かないいきサロン会を立ち上げたいと思いました。参加した母親は、にこにこした表情で幸せそうにしていて、地域の方も認知症の母親を理解してくれたり、安堵と同時にサロンのありがたみを感じました。

いきいきサロン会は、運営委員10名とボランティア22名の計32名で運営しています。月に1回の運営委員会で、次は何をするかみんなで意見を出し合います。コロナ流行前は、食事会やカラオケ、運営について、町内会が協力的で、会場である公民館の利用環境を良くしてくれたり、事務員さんおかげなどをしていました。しかしコロナが流行してからは、できることが制限され、毎回、開催できることかできないかの判断をしてから案内状を出すなど、とても苦労しています。それでも、できることを模索し、妥協はしません。サロンの運営について、町内会が協力的で、会場である公民館の利用環境を良くしてくれたり、事務員さん

がお手伝いしてくれたりして、すくありがとうございました。

いきいきサロン会に初めて来るのは勇気がいるかもしれません。私はここで多くの人と出会いました。その人たちと町で会えば、挨拶を交わしたり、立ち話をしたりします。サロンがなければ出会いつてなかつただろうと思う人や年齢が離れた人とも出会うことができました。そんな場ですることに魅力を感じ、お世話を続けています。今後、コロナが落ち着いたら人気のお食事会やカラオケなどを再開し、またみんなで楽しく有意義な時間を過ごしたいです。



講師を迎えて開催した健康教室の様子



浜町いきいきサロン会代表

はやし じゅんこ
林 順子 さん